

# ある非常勤講師の話

—教師の専門性を陶冶し、  
教育への使命感を抱いて—



愛知県立岡崎北高等学校長

内藤 六市 氏

## 教育随想



平成13年7月1日

# 7月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想	.....	①
愛知県立岡崎北高等学校長 内藤 六市氏		
この人に聞く	.....	②
深津 信夫氏		
羅針盤	.....	②
梅園小学校長 内藤 廣光		
ふれあい	.....	③
設楽町立名倉小 石川 恒彦 連尺小 倉地 耕治		
特集	.....	④
豊かな心をはぐくむ 期待される小中連携教育		
お知らせ	.....	⑥
フォト・ヒストリー	...	⑧
この本を	.....	⑧

私がまだ愛知県教育センターに勤めていた昭和五十年代後半に聞いた話です。ある奥三河の小規模な高等学校から研究指導主事として赴任してこられた同僚の先生がこんな話をされました。

「私の勤めていた学校で国語の非常勤の先生を探していました。苦労して探して、やっと隣のT市に住む会社員の奥様に来ていただくことになりました。一年間国語を教えていただいたら、年度末に、その中の何名かの生徒が教頭先生のところへやってきて、来年の我々のクラスでの国語の授業は、是非もう一度、その講師の先生にお願いしますと言うんですよ。同じようなことがその翌年も続きました。きつとその講師の先生が大変素晴らしい先生で、素晴らしい授業をされたんでしょね。その講師の先生が矢崎藍さんでしたよ」と言われました。

矢崎藍さんはその後、この地域に根をおろした作家として活躍を始められました。『ああ、子育て戦争』『身もこがれつつ小倉百人一首』などは多くの人に読まれ、高い評価を得た作品です。やがて新設の豊田短期大学（現桃花学園大学）が創設されると、教授に迎えられることになりました。

その高校の生徒たちは講師の先生の講義の中に、優れた専門性と豊かな人間性を感じとったのではないかと思います。限られた時間しか生徒に接することができない非常勤の先生の中に

も、このように大きな影響を与える先生がおられることは私には衝撃でした。

我々は、教職が専門職であることを自覚し、教師としての専門性を陶冶すると同時に、生徒に対する愛情と教育への使命感を抱いて、日々の教育活動に努力していききたいものです。

(ないとう ろくいち)





### 神明宮大祭を支える

深津 信夫 氏

蒸し暑ささえ感じる五月初旬、深津さんのご自宅を伺った。玄関の方から「わっしょい、わっしょい」と子供の神輿を担ぐ声が聞こえてくる。その中で話を聞くことができた。

「神明宮大祭は五月の第二土曜日、日曜日ですが、子供たちにとつては五日からお祭りです。お獅子をかぶり、鐘を鳴らしながら法被を着た子供たちが大祭の日まで町内を廻るのです。」

深津さんは消防団、交通指導員などで活躍され、町総代や、年行事、大年行事を長い間務めてみえた。

神明宮大祭は、江戸中期からほぼ変わらず、今に伝えてきた祭礼行事である。

昭和二十年五月十五日。岡崎が戦火に焼かれていたときも、規模を縮小して行われたそうである。筆書きの会計報告書が無事、深津さんの手元に残されている。

深津さんは、祭りをとおして、子供たちと接することが多い。そこで今の子供を見てどんな思いを持っているか伺ってみた。

「最近の子供は人間関係が希薄であると言われますが、ここ（町内）に住んでいる子供は年上の者が年下の者の面倒を見たり、祭りの指導をしたりしています。祭りに参加するのは小学生だけですが、中学生になっても学校帰りに、笛や太鼓などお囃子の指導をしています。」

お祭りをとおして子供たちが育っていく。教育は、「学校で」「家庭で」そして「地域で」の理想の一例がここにあるように感じられた。

しかし困っていることもあると深津さんは話を続けられた。

「少子化に伴い、町内によっては子供を集めるのに一苦労することもあります。また、年行事などの役

になるのも今は、会社勤めの方が多く、かなり無理をして引き受けていただいています。それだからというのではないのですが、祭りに関してのマニュアルを作りました。」

子供たちの声が大きくなり、深津さんの顔に笑みが浮かぶ。社会の変化に対応しながら、歴史と伝統の残るお祭りを維持していこうとする心意気を感じることができた。

氏名 ふかつ のぶお  
生年月日 大正十五年六月十八日  
住所 元能見町五十六番地



### 全員で走ろう

梅園小学校 内藤 廣光

それは三十三名が力いっぱい頑張ったという感動の涙であった。

昨年、六年生のある学級が仲間の絆を強めるために三十人三十一脚の大会に出場することを決めた。

この大会は学級を単位として三十人以上がチームを編成し、五十メートルを競う競技である。そして、東海三県の地区大会に優勝すると全国大会に出場できることになっていた。

九月の地区大会に向けて日曜日も夏休みも返上しての猛練習がはじまった。それに応えた担任の先生の熱意もすばらしかった。

一見単純そうなこの競技も、やってみると運動能力の違いや背丈の差があつて簡単ではない。しかし、試行錯誤をくり返しながらの努力で、日に日に記録が更新され、見事全国大会の切符を手にすることができ

# A子の涙から

設楽町立名倉小学校

石川 恒彦



「私たちの歌で、最後に六年生を泣かせちゃおうね。」  
明るく話すA子を中心に、「六年生を送る会」に向けて、

五年生の歌の練習が始まった。A子たち九人の五年生は、毎朝の練習を一か月近く自主的に続けてきた。

そして当日。五年生と職員による『そのままの君で』の合唱を耳にして、十四名の六年生は、大粒の涙を流した。その時、六年生と同じように、いやそれ以上にA子の目からは涙があふれていた。五年生の全員が、流れる涙をぬぐおうともせずに、精一杯歌っていた。

その日のA子の日記。  
「五年間、ずっとずっとお世話になってきた六年生がいなくなると思うと、涙が止まりませんでした。」

二年合同の複式で行っている音楽と体育の授業、全校縦割り班で行っている毎日の清掃、通学団での登下校など、本校では、上の学年の子が下の子の面倒を实によく見る。そうした毎日の積み重ねの上に、あの涙があったのだと、改めて気づかされた。  
日々の繰り返し返される異学年の子供たち同士の交流がどれほど大切か、A子の涙から身にしみて教えられた。



## グッドアイデア!

連尺小学校 倉地 耕治

A男は、アメリカの保育園を卒業して入学してきた。おしゃべりで笑顔のかわいい一年生。

ある日、掃除の時間にその出来事は起きた。手洗いの液体せっけんが減っているのを見たA男は、せっけん入れのふたを取り、こぼさないようにいいねいに水を入れた。さらに、そのままではせっけん液がうすくなる。

ってしまおうと考えたのか、固形せっけんの入った網を、そっと中に入れ、ふたをした。

「だれだ。こんなことをしたのは。」私の大声に、A男が得意そうな顔で手を挙げた。彼は、ニコニコしながら、

「グッドアイデア!」

しかし、  
「こんなことしちゃあ、だめだよ。」と注意すると、A男はすっかり意気消沈。  
帰り道、A男たちを途中で送っていきながら、そつと言葉をかけた。

「せっけんをふやすアイデアは、なかなかよかったです。」  
A男は、道々摘んできたシロツメグサの花束を差し出して、

「先生、あげる。」

A男にいつもの笑顔が戻った。

A男の、次のグッドアイデアを楽しみに待っているところである。



た。幸い当日三十名の出場という最高の条件にも恵まれたこともある。  
さて全国大会出場が決まって、その出場人数を三十名にするか、三十名全員にするかという大きな問題につき当たってしまった。

「東海の代表だから少しでもいい記録をめざすべきだ」「出場できない子がかわいそうだ」等々親も子供も意見がまとまらない。「全国大会入賞も夢ではない」という親の盛り上がりもあって、練習に集中できない日々が続いた。

地区の大会と違って各代表は強豪ぞろいである。メールで各地の記録が届くたびに胸がしめつけられる思いであった。そんなメールを読みながら、何回学級会を開いたことか。時には保護者を交えた会もあった。

結果、子供たちは友情と絆を大切に、三十三名が全力で記録に挑戦するとうる最良の選択で決着した。日ごろの担任の指導に子供たちが応えてくれたのである。その選択に、担任は感動で涙、涙であったという。成績は他の二十六チームが三十名で走る中、堂々の十三位であった。走り終えて、どの子の目にも涙があふれていた。三十三名のスクラムは生涯忘れることはないであろう。

豊かな心をはぐくむ

# 期待される小中連携教育



▲「総合的な学習の時間」調理実習（六中1年・中部小1年）

▲長放課の交流「夢中 なかよしタイム」（六中3年・中部小5年）

小学校・中学校の九年間を通して、子供を見つめ育てていこうという小中連携教育が、今改めて注目されている。文部省の小中一貫教育の推進を受けて、岡崎市でも三校区が指定され、小中連携教育の研究を進めている。アンケートによれば小学生と中学生の交流や教師間の情報交換など、何らかの形で連携教育を進めている学校は、市内で八校区にのぼる。

その内容は様々であるが、実際に子供同士が交流を深めている校区がある。竜南中学校区では、六年生が中学校見学会や文化祭に参加したり、緑丘小の六斗目展や上地っ子まつりなどの小学校の行事に中学一年生が参加したりしている。また、六ッ美中学校区では、総合的な学習の時間なども利用して、継続的な交流を図っている。子供同士が触れ合うことで、中学生には年少者に対する優しさや気配りが芽生え、リーダーシップをとれることでやる気や自信も生まれた。小学生も、活動意欲が高まっただけでなく、中学校進学への期待感が大きくなった。



▲「総合的な学習の時間」田植え（六中1年・中部小2年）



▲中学「ふれあい教室」に参加（常磐中・常磐小6年）



▲上地っ子祭りに参加（上地小・竜南中1年）



▼「総合的な学習の時間」車いす体験（六中3年・中部小5年）



▲中学文化祭に参加（竜南中・上地小・緑丘小6年）



▲中学部活に参加（竜南中・上地小6年）

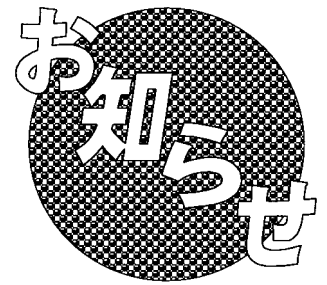
小中学校連携教育の内容と活動時間帯(六ッ美中学校区)の例

- ・長放課交流（月2回、自由交流とテーマ交流）
- ・継続的交流  
（月6時間程、「総合」の時間を利用、学年・学級を決めて交流）
- ・教科・領域、その他の交流  
（各教科を中学生が小学生に教える、小学生の部活体験、選択授業や委員会活動での交流）
- ・作品交流（児童・生徒の図工・美術、書写作品展示）
- ・教師間交流（合同の研究推進協議会や情報交換）
- ・3校合同「クリーン大作戦」（年2回、生徒会活動）

教員同士がお互いの授業を参観する校区も多い。北中学校区のように年に一度一週間をまとめて取る場合もあれば美川中学校区や矢作北中学校区のように学期に一度程度参観の機会を設ける場合もある。小中ともに多忙な中で計画していくことの難しさはあるが、お互いの実情がよく分かり、児童・生徒理解のうえでも大変有効であると、意欲的な取り組みが行われている。

小中学校の教員による合同の現職教育や授業研究会での交流を積極的に行っている校区もある。葵中学校区では、九年間を見通した学習習慣の確立を同一歩調で進めている。九年という時間の中で学習習慣を育てたり、学習内容の位置付けを明確にしたりすることをねらい、具体的な手立てを共に考えている。

複数の学校が歩調を合わせて交流等の機会を設定することは確かに難しい。しかし、九年間を通して、長い目で子供を見つめることができる連携教育には、今、大きな期待がかけられている。



●教育研究所だより

○教育資料室の活用を！

教育研究所が、若宮庁舎三階に移転して、一か月あたり

約四百名の方々が訪れるようになった。その多くが、研修会等の会議の利用である。教育資料もたくさんあるので紹介する。教育研究所にとどけられた指導案の種類は、下の表のとおりである。これらが分類整理して閲覧できるようになっている。月曜日から金曜日

各教科指導案数 (平成13年6月1日現在)

分類	教科	部数 (小学校)	部数 (中学校)	分類	教科	部数 (小学校)	部数 (中学校)
01	複数教科	26	277	39	外国語		19
31	国語・書写	132	17	41	道徳	42	28
32	社会	84	10	42	特別活動	44	19
33	算数・数学	95	11	45	進路指導		23
34	理科	83	8	49	総合学習	14	2
35	生活	65		51	図書館利用	48	6
361	音楽	75	15	52	情報教育	64	63
362	図工・美術	63	13	531	健康教育	27	4
37	保健・体育	69	16	60	特殊教育	61	8
38	技術・家庭	57	17				

の午前九時から午後五時まで、自由に閲覧できるので、つでも利用をどうぞ。

○不登校相談室より

臨床心理士、大津直樹先生による相談が始まった。五月三十一日現在の相談状況は左記の表のとおりである。小学校三年生、中学校二、三年生の男子の利用が多いのが特徴である。発達段階とのかかわりが見えてくる。該当学年の先生方は、特に生徒との心の絆を大切にして、指導にあたってほしい。  
夏休みも不登校相談室は、毎週水・金の午後が開かれる。保護者への啓発をお願いしたい。

小学校	学年	1	2	3	4	5	6	計
	男	1	1	4	0	0	0	0
女	0	1	0	0	0	0	0	1
計	1	2	4	0	0	0	0	7

中学校	学年	1	2	3	計
	男	0	2	4	6
女	0	1	0	1	
計	0	3	4	7	

○そよかぜ相談室より

そよかぜ相談室は、六月から来年の一月まで、就学に不安のあるお子さんとその保護者の方を対象とする教育相談室である。月曜日から金曜日の午後開かれている。夏休みは、八月十日から八月十九日の間は休み。下の電話かインターネットで申し込みを受けている。

そよかぜ相談室の利用の仕方  
 ☆電話による申し込み 23-6993  
 ☆e-mailによる申し込み  
 soyokaze@st.oklab.ed.jp



▲若宮庁舎（教育研究所 3階）

●少年自然の家だより

○少年自然の家の主催事業  
 すぶちワイルドキャンプ  
 8/3(金) 5(日)

これは、山の生活が大好きな市内の子供たち(小四〜中三)に、自然の家の野外活動をたっぷり味わってもらう、自然の家のメイン事業である。毎年参加している子どもも少なくない。

三日間をキャンプ場で暮らし、野外炊飯、落ち葉スキー、アスレチック、キャンプファイヤー、それにカヌーや水遊びを存分に楽しんでもらっている。

昨年は九十五名の子供たちが参加した。子供たちの指導は、例年ORLC(岡崎レクリエーションリーダーズクラブ)の先生たちの協力を得て助かっている。

今年も募集人数一〇〇名。大勢の子たちの参加を期待している。

○野外活動指導者講習会

7/25(水) 27(金)  
 野外活動委員会が中心とな

つて、今年も野外活動の実技講習会を予定している。すでに一、三〇八名の先生が受講済みである。

まだ修了証を持っていない先生は、是非参加してほしい。

○「自然の家だより」揭示のお願い

従来、年に一度、同表題の所報を、市内の先生方に配布していたが、事情により、今年一月より廃刊して、代わりに所員の手作りによる所報を月一回発行し、教室に掲示していただくようお願いしている。

所の主催事業の案内は、市政だよりに掲載しているが、掲載のご協力をいただいてから、参加申込み者が随分増えた。

今後もご協力いただけるようお願いする。

○すぶちの自然紹介

七月上旬は、所内にヤマモモが実る季節。今年は毛虫が異常発生して、木の葉が随分被害に遭い、結実が絶望的だ。各学校の校庭の樹木はいかがだろうか。

◆第45回岡崎中学校総合体育大会の記録

●種目別競技

種目	性	優勝	2位	3位
陸上競技	男	北	南	東海
	女	矢作北	六ッ美	東海
バスケットボール	男	竜海	矢作北	葵
	女	甲山	南	竜海
バレーボール	男	矢作北	竜南	南
	女	矢作北	北	岩津
ソフトテニス	男	矢作北	城北	甲山
	女	常磐	城北	矢作北
卓球	男	矢作北	六ッ美	東海
	女	南	岩津	竜南
体操	男	東海	南	竜海
	女	東海	北	矢作北
剣道	男	常磐	矢作北	城北
	女	南	六ッ美	城北
ハンドボール	男	葵	美川	竜南
	女	竜南	六ッ美	美川
軟式野球	男	竜海	北	岩津
	女	城北	矢作北	竜海
ソフトボール	男	甲山	竜海	北
	女	矢作	甲山	竜南
柔道	男	甲山	新香山	北
	女	甲山	新香山	北
サッカー	男	甲山	新香山	北

●陸上競技(個人・1位のみ)★大会新記録☆大会タイ記録

性	種目	氏名	校名	記録
男	1年 100m	加藤 駿	甲山	13"1
		小柳 龍太	北	11"5
	200m	岡本 勝太	東海	24"3
		中根 圭太	六ッ美	55"2
	400m	兵藤 利哉	甲山	2'10"7
		清水 紀仁	葵	4'49"6
	1年 1500m	渡邊 正人	東海	4'35"1
		丸尾 祐矢	岩津	9'32"4
	2年 1500m	丸尾 祐矢	岩津	9'32"4
		丸尾 祐矢	岩津	9'32"4
女子	110mH	岩永 雅人	北	16"6
		松井・岩永・林・小柳	北	1'38"2
	800mR	坂上・酒井・榎・三浦	葵	50"3
		坂上・酒井・榎・三浦	葵	50"3
	走幅跳	林 昇平	北	6m21
		神尾 元信	竜南	1m70
	走高跳	沢 辺 正伍	南	12m36
		水野 正二	南	12m36
	砲丸投	水野 正二	南	12m36
		水野 正二	南	12m36
棒高跳	水野 正二	南	12m36	
	水野 正二	南	12m36	
女	1年 100m	千代島 柴那	新香山	14"1
		近 瑛利子	竜南	13"0
	200m	水野 沙織	東海	28"3
		大沢 美穂	矢作北	2'27"2
	800m	和田 真利那	矢作北	5'08"0
		和田 真利那	矢作北	5'08"0
	1500m	和田 真利那	矢作北	5'08"0
		和田 真利那	矢作北	5'08"0
	100mH	林 加世子	北	16"7
		室井・大沼・山内・水野	東海	52"9
400mR	室井・大沼・山内・水野	東海	52"9	
	酒井・高野・猪飼・近藤	葵	56"2	
低400mR	酒井・高野・猪飼・近藤	葵	56"2	
	酒井・高野・猪飼・近藤	葵	56"2	
走幅跳	野田 由貴	矢作北	4m57	
	池本 里紗	岩津	1m47	
走高跳	池本 里紗	岩津	1m47	
	池本 里紗	岩津	1m47	
砲丸投	池本 里紗	岩津	1m47	
	浅井 和子	葵	10m23	



▲六ッ美中学を先頭に堂々の入場行進

●体操競技

(個人・1位のみ)

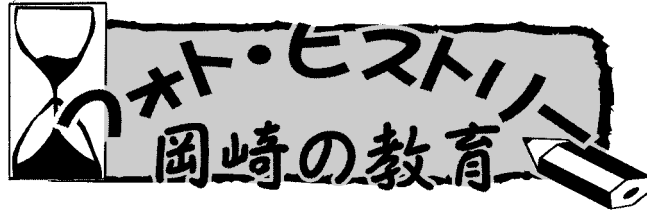
性	種目	氏名	校名
男子	個人総合	戸田 健太	竜海
	床運動	戸田 健太	竜海
	鉄棒	戸田 健太	竜海
女子	個人総合	石川 絵理	東海
	床運動	石川 絵理	東海
	平均台	石川 絵理	東海
	跳箱	清水 絵美	東海

●柔道

(個人・1位のみ)

性	階級	氏名	校名
男子	軽量級	鈴木 敦仁	矢作
	軽中量級	白井 裕二	甲山
	中量級	大治 圭五	北
	重量級	黒柳 光	竜海
女子	軽量級	内藤 麻奈	竜南
	軽中量級	赤堀 裕美	甲山
	中量級	富田 知香	矢作

・カ  
ツ  
ト  
河  
合  
中  
高  
橋  
誠



# 創立 100 周年 (昭和 48 年)

明治五年九月五日の学制發布と前後して、この年、市内の七つの小学校が開設された。翌六年二月、私塾廃止令により、現在の六ッ美中部小学校区で、最も多い私塾を有していた合歓木村が、いち早く額田県の許可を得て「下小学校」を開設した。昭和四十八年二月二十八日には、創立百周年記念行事が盛大に行われた。写真には、記念行事に参加する学区民や百周年を記念して作られた丸池、今では少なくなつた木造の校舎などが写っており、当時の様子がしのばれる。学校に対する学区民の思いは熱く、校旗制作、校地の拡張など様々な記念行事が行われた。



写真提供 六ッ美中部小学校

## この本を

- \*なぜ生きる 高橋 顕徹 1万年堂出版 ￥1500
- \*麻薬脱出 軍司 貞則 小学館 ￥1500
- \*恐怖 筒井 康隆 文藝春秋 ￥1048
- \*僕たちはいない人間ですか 伊藤 幸弘 扶桑社 ￥1300

\*読み聞かせしあわせ革命 沢木 景子 KKベストセラー ￥1400

「子供たちが本を読んで欲しがっている」それならと、主婦である著者は気軽な思いで読み聞かせをスタートした。そのことをまとめたのがこの本である。

子供は、聞くことによって言葉やイメージを豊かにはぐくみ、様々な人たちの意見を聞いて考える力も育っていき、それと同時に読んでいる側も子供から元気を与えられていくのであると著者は語る。

読み聞かせをやってみようかなと思っいる人には、よきアドバイスを与えてくれる。

各々の学校で、試行錯誤で取り組んでいる総合的な学習。これまでとは違い、保護者や地域の人たちが積極的に参加、参画する試みがなされている。今、「学社融合」と言われる。まさに、二十一世紀の新たな教育の挑戦が始まった。

## シオ スア

自然に落ちた種が発芽し、花を咲かせた。昨年、育てた朝顔。その場所に新しい命が育っている。一年間待ち続け、夏の到来に合わせるように花を咲かせる。弱々しく見えるが、つるを巻きつけ、上へと伸びる朝顔に、生きる力強さを感じる。

アオバズクの死骸を子供が学校へ持ってきた。傷みが激しく、腐乱して臭いもした。子供にとって、珍しさと直に触れられる喜びが勝ったのだろう。観察したあと供養塚に鳥を埋めて、手を合わせる子供を見て、体験から思いやりを学ぶ姿を実感した。

素直で真つすぐな小学生たちの瞳に、中学生たちは大きな優しさで応え、頼もしい中学生を見て、小学生たちは憧れる。九年間という時間をとおして、子供たちを見つめていける小中連携教育。支え合って生きることが伝わってくる。